

対話型アセスメント DLA をどのように日本語指導にいかしたか

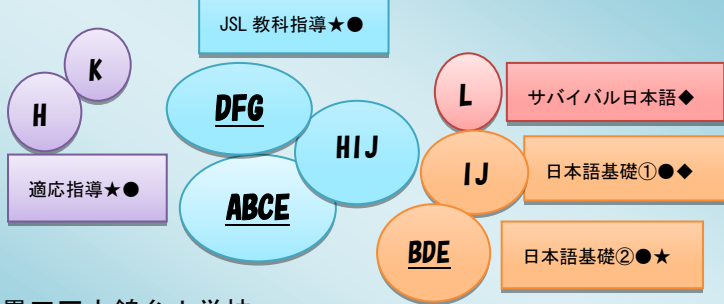
—小学校での JSL カリキュラムづくりへの取り組み—

墨田区教育委員会 日本語指導員

中野 裕美子

1. 実践の現場

2015 年度 例) 3 年生



墨田区立錦糸小学校

在籍 220 名 / 約 50 名の児童が日本語指導対象

(小学校) ★日本語加配教員 (すみだ国際学習センター) ●日本語指導員 ◆日本語支援員

2-1. 対話型アセスメント DLA とは…

テスト	測定能力	CF	DLS	ALP
導入会話		○		
語彙力チェック			○	
〈話す〉		○	○	○
〈読む〉			○	○
〈書く〉			○	○
〈聴く〉				○

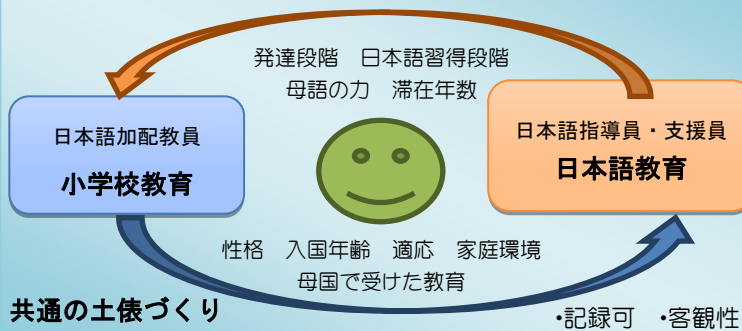
- 紙筆テスト
- 集団テスト
- 文字・文法など言語要素のみ

児童の潜在的な力を引き出す

CF: 会話の流暢度 DLS: 弁別的言語能力 ALP: 教科学習言語能力

2-2. なぜ DLA?

児童の具体的な言語能力のイメージを共有



3. DLA の結果から

対象: 3 年生 7 名 (A. B. C. D. E. F. G)

DLA 〈読む〉

- 文章の内容からではなく、挿絵から解釈したことを話す。
- わからない語彙に遭遇すると、そこから読み進められなくなる。
- 重要な内容が再話できない。

DLA 〈書く〉

- 段落意識がない。
- 文中に漢字がほとんどない。
- カタカナ語や特殊音の表記×。
- 似ている内容を繰り返し書く。
- 助詞の用法や活用が適切ではない。

「話す」力と「読む」「書く」力に大きな差

4. 具体的な実践 JSL 国語科指導

DLA の結果と児童の関係性などを考慮し、7 名を2つのグループにわける。(1 参照)

グループで教科学習をすることによって…… 説明/発表する 意見を聞く 教え合う 伝え合う 協力して答えを探す

はっとしたことを詩に書こう

詩「ころころりん」「なべのようなおふろ」

- 擬態語・擬音語 様子を見せる。体験させる。
- 同じ内容の「詩」「文」を読んで、比較させる。
- 詩中のだんごむしの様子を絵に描かせる。
- 詩中の語意を視覚的に確認する。
- 児童が個々に書きたい内容で詩を書かせる。

読む 体験 比べる 気づく 書く

児童の様子

詩には「～と思う」がない!

- 表現したいが増える。
- 友達が話すことを聴く。
- 教科書の内容に興味をもつ。

「どぼん」の様子がわかった!

同じクラスの友達とすもうをして勝ったという内容で詩を書く。

話す	書く
1.7	4月
3.6	3月 3.1

支援 書きたい内容について話を聞く。書いた文を一緒に読む。

文字のまちがいさがし 3ヒントなぞなぞ 2年生で学んだ漢字 他

教科学習につながる読み書きの力を伸ばす

- カタカナや特殊音、助詞の用法に注目させる。
- わからない語意は画像やイラストで確認する。
- グループの友達に考えていることを伝える活動。
- まず短い文で「読む」「書く」にチャレンジ!
- 書いた文をアドバイスし合う。

読む スモールステップ 表記 考える 伝える 聴く 書く

知らない語彙が多く文字表記△

3ヒントなぞなぞの答えを考えが違うメンバーに説明する。

- 自然習得した語いや表現が「書く」ことにつながる。
- 「書く」自信がつく。

冬休みの出来事作文では、内容をすぐに決めて書きはじめる。漢字を積極的に使う。

書く	読む
2.6	4月 3.0
3.2	3月 3.25

まちがいやすい助詞や活用を含む短文の読み書きを日本語基礎のグループでも練習する。

5. 実践の経過と今後の課題

年間を通しての児童の日本語の伸びが把握できた。個々の課題がさらに明確になり、今後の指導内容等を検討中。DLA の日本語能力判定の共通の尺度を現場で検討 → 各 DLA 実施現場での尺度や実施状況などの情報を共有する。